

## 福岡平野の三次元地下地質構造 3D subsurface structure of the Fukuoka Plain

木村 克己<sup>1\*</sup>, 康 義英<sup>1</sup>, 花島 裕樹<sup>2</sup>, 岸本 清行<sup>1</sup>, 堀 伸三郎<sup>3</sup>  
Katsumi Kimura<sup>1\*</sup>, Kou Yoshihide<sup>1</sup>, Yuki Hanashima<sup>2</sup>, Kiyoyuki Kisimoto<sup>1</sup>, Hori Shinzaburo<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所地質情報研究部門, <sup>2</sup> 筑波大学生命環境科学研究科, <sup>3</sup> 防災技術株式会社

<sup>1</sup> AIST, Geological Survey of Japan, <sup>2</sup> Univ. of Tsukuba, Graduate school of Life and Environment Science, <sup>3</sup> DPT Corporation

ボーリングデータの解析に基づいて、警固断層とそれに伴う沈降運動に関するテクトニクスの解明に資するように、福岡平野の地下地質構造図を作成し、警固断層の形状と運動像、第四系の地質構造について考察した。解析に利用したボーリングデータは、2,438本であり、作成した地質構造図は、基盤面などの地層境界面のサーフェスモデル、層厚の等値線モデル、地質断面図、および、警固断層沿いの詳細図を作成した。第四系の層序は、下山(1989)に基づき、下位から上位へ、仲原礫層、須崎層、阿蘇-4火砕流堆積物、大坪砂礫層、沖積層に区分した。須崎層については、上方細粒化の堆積サイクルに基づいて、下部層と上部層とに細分した。

これらの地下地質構造図と基礎となるボーリングデータを基礎に、アナグリフ画像の技術によって、平野地下地質構造の三次元的可視化を試みた。本講演では、その試みの結果をポスターおよびPCにて紹介する。

主要な地質構造は、木村ほかの口頭講演で紹介するとおり、福岡平野の西縁を画する左横ずれ活断層の警固断層とその北東側に隣接する天神沈降盆である。

キーワード: 三次元地質構造, 福岡平野, ボーリングデータ, サーフェスモデル, 余色立体図

Keywords: 3d subsurface structure, Fukuoka Plain, borehole data, surface model, anaglyph